

# マタニティへの思いやりプロジェクト「KODO」による お産に対するジェンダー意識の変容期待に関する研究

土田 栞<sup>†</sup> 渡邊 宏尚<sup>†</sup> 上川原 ひろみ<sup>††</sup> 齊藤 唯<sup>††</sup>  
小松 望<sup>†††</sup> 林 秀彦<sup>†‡</sup> 皆月 昭則<sup>†</sup>

† 釧路公立大学

†† 市立釧路総合病院

††† 白糠町役場

†‡ 鳴門教育大学

## 1. はじめに

現在、マタニティは孤独と不安に苛まれる。一世帯平均人数 2.51 人で、約 60 年前の 5 人に比較すると、夫婦のみ世帯が多く、マタニティを直接的に支援できるのは夫などの配偶者である。夫婦の役割分担を我が国の調査では、6 歳未満児のいる世帯で 1 日の家事・育児時は夫が 1 時間 7 分(うち育児時間 39 分)、妻が 7 時間 41 分(うち育児時間 3 時間 22 分)で、私のような女子達は、現状のジェンダー差に危惧している者が多い。役割分担を見直し、男性や周囲の人々の意識が変化しなければ、女子は、将来、マタニティにならうとは思わないだろう。そのような社会の意識から、私はマタニティへの思いやり(思慮深さ)で子どもを産み育てる社会の実現に期待して「KODO:maternity thoughtfulness」プロジェクトを立ち上げた。もっと女性に寄り添うサポートそして男性の思いやり意識向上策のスマートフォンアプリ機能を開発してプロジェクトを通じて公開配付した。

## 2. プロジェクト向けに開発したアプリケーションの概要

本アプリケーションのメインの機能は、病院前の陣痛間隔を計測・記録しマタニティに病院受診を促す。アプリケーションの判断ルールはお腹のハリ(腹部緊張)感覚時点から入力可能であり、デバイス内では陣痛とみなし記録保存および周囲のデバイスと共有が可能である。また、お産に関する教育・知識機能を実装し、マタニティになる前の女子・女性達そして男性を含む社会の人々への学習支援を実現した。

### 2.1. お腹のハリ(腹部緊張)感覚や陣痛の処理フェーズ

アプリケーションの主な機能は、①前回の陣痛終了時点～次の陣痛開始時点までの陣痛間隔の計測、②計測した陣痛間隔の記録保存、③記録データの導出値に基づき、安全上の注意点を喚起する評価コメント文の表示、④CSV 形式での記録保存データのマイクロ SD カードへの出力の 4 つである。アプリケーションの判断ルールは、異常を感じた場合は、計測結果に関わらず、早期に医療機関に連絡する注意喚起表示を重視した。

## 3. プロジェクト「KODO」が社会に期待される効果

### 3.1. マタニティの身体的負担や精神的不安の軽減

痛みの苦痛に耐え、時計を見ながら手記するマタニティが多くいる。痛みの発生時、計測・記録を行うことはマ

タニティの身体的負担や精神的不安は多大である。アプリは画面タッチの操作によって、従来の負担を軽減した。また、計測値に基づいたアプリのコメントの機能によって、母子手帳に準拠した安全に関する留意点が確認できる。総合的な効果として看護師が寄り添うような安心感を与えることが期待される。

### 3.2. 正確な計測情報による問診媒体の生成

アプリによって、陣痛の開始時刻や前回からの間欠時間、継続時間が自動保存されるため、病院に連絡する際の情報の整理に用いることができる。

## 4. プロジェクト「KODO」の検証

プロジェクト「KODO」は開発したアプリケーションや思想信条を地域・社会に反映させて浸透することである。検証しながらも実際のソーシャルサポートを重視しており、マタニティ支援や大学生の男子・女子に教育を実施し、少子化問題を直接的に捉えた。マタニティ支援機能の検証では、アプリケーションを配布し、対面方式で出産後アンケート調査を世帯に実施した。実際に使用したマタニティからは、病院との意思疎通に有用であり、KODO ペアリング機能の使用後は、配偶者が家事をするなど親切になったという感想が得られた。

## 5. まとめ-マタニティへ思いやり社会に向けて

少子化は女子・女性の責任ではない。男女の家事育児時間の不平等について、私たちは知っているが、社会は目を向けてこなかった。マタニティを女子・女性というジェンダー固有の意識で見てはいけない。マタニティは人類の繁栄存続に特別な存在でマタニティへの思いやりが不可欠である。配偶者や家族等とつながるアプリの「KODO ペアリング機能」で“思いやり”や“親和性社会”行動・現象・効果を用いて社会を変えていく。

## 参考文献

- [1] “妊娠大百科” 株式会社学研パブリッシング(2014).
- [2] 杉野広法 “産科疾患の診断・治療・管理 3.分娩の生理・産褥の生理”, 山口県立大学看護学部紀要 日本産科婦人科学会雑誌 59(10), “N-637”-“N-643”, 2007-10-01 (2007).
- [3] 中村恵里子, 黒田緑, “大学生がもつ出産のイメージと関連要因”. 母性衛生 54(3), 239, 2013-10-04
- [4] 木本喜美子, 榎一江, “ジェンダー平等と社会政策” 社会政策学会誌